

第26回電波功績賞 「総務大臣表彰・電波産業会会長表彰」受賞

2015年6月16日に開催された第26回電波功績賞表彰式において、無線標準化推進室長 橋本 明氏が「地上無線通信システムの国際標準化に関する貢献」について総務大臣表彰（電波産業会創立20周年特別賞）を、VoLTE開発グループ（代表 照沼 和明氏）が「VoLTEの実用化」について総務大臣表彰を、マルチバンド対応ROF（Radio Over Fiber）*1システム開発グループ（代表 前原 昭宏氏）が「マルチバンド対応ROFシステムの開発・実用化」について電波産業会会長表彰をそれぞれ受賞しました。

電波功績賞は、一般社団法人電波産業会（ARIB：Association of Radio Industries and Business）により、電波の有効利用に関する調査、研究、開発において画期的かつ具体的な成果をあげた者、あるいは電波を有効利用した新しい電波利用システムの実用化に著しく貢献した者に対して授与されるものです。電波産業会創立20周年を迎えた今年度は上記に加え、多年にわたり電波利用に関する研究開発、標準化活動、普及活動などに従事し、電波の有効利用の向上または電波利用システムの発展に多大な貢献をした個人に対して特別賞が授与されました。

特別賞の「地上無線通信システムの国際標準化に関する貢献」では、橋本氏が地上無線通信分野における国際電気通信連合無線通信部門（ITU-R：International Telecommunication Union-Radiocommunication sector）会合に1980年以降継続的に参加し、多くの重要勧告の策定に貢献したこと、さらに2007年からはITU-Rにおける最大規模のグループである第5研究委員会（SG-5）の議長として、携帯電話システムを含む、地上無線通信システムの国際標準化に多年にわたり貢献したことが評価され、受賞となりました。

総務大臣表彰の「VoLTEの実用化」では、照沼氏らが移動通信分野において、LTE通信方式の packets 交換を利用し、音声サービスの品質を保証しつつ、周波数利用効率を3Gに比べ3倍に高めたVoLTEの国際標準化を主導するとともに、開発・実用化を行い、国内で初めてサービスを提供するなど、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

また、電波産業会会長表彰の「マルチバンド対応ROFシステムの開発・実用化」では、前原氏らが無線アクセス分野において、LTEサービスの屋内エリア拡大のため、従来の2GHz帯に加え1.5GHz帯および1.7GHz帯にも対応し、それぞれの無線信号を1つのシステムで同時に高品質、かつ安定して伝送可能なマルチバンド対応ROFシステムを開発・実用化し、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。



*1 ROF：複数のサイトにそれぞれ設置された子局装置と遠隔の別ロケーションに設置する1台の親局装置および基地局設備とを光ファイバにて接続し、光ファイバ上で無線信号を伝送するシステム。装置の小型化により各サイトへの設置が容易になるとともに、親局側装置の共用化やメンテナンス効率化などによるランニングコストの削減を可能とする。